

力を合わせて乳製品の価値の向上を目指す ～「新鮮」という感動を1人でも多くの消費者に～

西尾市 合同会社 酪（小笠原正秀さん、北村克己さん）

畜産（酪農）、乳製品の製造・販売

【平成28年6月20日掲載】

それぞれが酪農を経営しながら、力を合わせて新鮮な生乳の特長を生かした乳製品を製造・販売し、乳製品の価値の向上と地域の活性化を目指して取組を進めている、西尾市の合同会社 酪（小笠原正秀さん、北村克己さん）をご紹介します。

酪農家の2代目として

合同会社 酪の代表 小笠原正秀さんと副代表 北村克己さんは、お二人とも父の代から酪農を始めた2代目です。

小笠原さんは、小さい頃から酪農を営む親の後姿を見て育ちました。「小学生の時に父が農業のテレビ番組に出演したことは今でも覚えている。中学生の時には『酪農家を目指して』という作文で賞をいただいた。」とのこと。高校卒業時には酪農を継ぐことを決意し、県立農業大学校を経て就農しました。

北村さんも酪農を継ぐことを見据えて、地元の農業高校に進学し、高校時代の研修で小笠原さんにお世話になり、「酪農の師匠」と仰ぐようになりました。その後、北海道の酪農学園大学に進学し、卒業後はアメリカへ渡って1年半研修した後、就農しました。



北村克己さん(左)、小笠原正秀さん(右)

それぞれの酪農経営の基盤を築く

小笠原さんの牧場は、就農当時、乳牛60頭をつなぎ牛舎で飼育していました。小笠原さんは、自給飼料生産に力を入れるとともに、雇用を導入して経営規模を拡大していきます。38歳の頃には、牛舎を改造して、ふん尿の排出量が少なく済むフリーバーン方式とし、乳牛を120頭に増やし、(有)小笠原牧場を設立しました。さらに10年後には、同時に20頭の搾乳ができるミルクングパーラーを導入して250頭にまで規模を拡大し、安定した大規模経営を実現しています。

一方、北村さんの牧場は面積が小さく、規模拡大には限界がありました。就農時に45頭であった乳牛は、廃材などを活用して規模拡大に努めましたが、62頭に増やすのが精一杯でした。そこで、10年ほど前から和牛の受精卵移植に取り組み、限られた面積でも1頭1頭の価値を高める経営を実現しています。

合同会社 酪 設立！ - 「価値」、「感動」、「感謝」を新たな3Kに -

平成21年、小笠原さんと北村さんに転機が訪れます。国道23号線沿いに道の駅が建設される

ことになり、市から酪農組合に対して乳製品の製造・販売の打診があったのです。その時、手を挙げたのが小笠原さんと北村さんの2戸でした。「北海道やアメリカで酪農を学び、いつかは乳製品の製造・販売に取り組みたいと思っていた。師と仰ぐ小笠原さんと一緒にできるのは光栄。」と北村さん。これをきっかけに、乳製品の製造・販売を行う合同会社 酪が、小笠原さんと妻の和美さん、北村さんと母の道子さんの4名で、平成21年9月17日に設立されました。北村牧場の敷地内に加工施設を建設して、ソフトクリーム、牛乳プリン、生キャラメル、チーズなどの製造・販売に着手しました。



酪のポスター（道の駅にて）

しかし、設立当初は苦労が絶えませんでした。「1次、2次、3次という3足のわらじを自分たちだけでこなすのは大変だった。頻りに集まって会議を行ったが、朝早くから夜遅くまで酪農の作業をした後なので、本当につらかった。」と振り返る小笠原さん。「それを乗り越えることができたのは、みんなが酪農や地域への想いを共有し、それぞれが分担して新商品の開発、乳製品の製造、パッケージのデザインなどの役割を果たしてきたから。」と話していただきました。

今では、「道の駅にしお岡ノ山」を始め「西尾市憩いの農園」や「一色さかな広場」などで乳製品を販売するとともに、昨年10月には名古屋市中区錦橋にオープンしたフレッシュチーズとワインの店「Milks」と提携し、消費者に新鮮な生乳で作った無添加の乳製品を提供しています。

「1人でも多くの消費者に、搾りたての生乳を通じて酪農のすばらしさを知ってもらい、価値・感動・感謝を農業の新たな3Kにしていきたい。」と小笠原さん。「先日Milksに納品に行った時、お客さんに『生産者の方ですか？新鮮なチーズを食べることができて幸せです。ありがとうございます。』と言っていたんですよ。」と北村さん。それぞれ想いを込めて熱く語っていただきました。



道の駅にしお岡ノ山での販売

乳製品の価値の向上を目指して

酪のこだわりは新鮮さだけではなくありません。地元の茶農家と連携して、牧場から出る堆肥を茶園に供給し、その茶園で生産された抹茶を乳製品に使用するなど、地域特産物のPRと循環型農業の実現に努めています。また、異業種とのコラボにより、酪農見学やチーズづくり体験の場を提供し、地域の活性化と酪農への理解促進にも取り組んでいます。

合同会社 酪の経営理念

- 1 酪は酪農を愛し、乳製品の価値の向上を目指す事業を行います
- 2 酪は地域を愛し、地域の活性化に貢献する事業を目指します
- 3 酪は人を愛し、組織の和を大切に、人に感動を与え感謝される事業を目指します

今後の展望をお伺いすると、「今年の夏には加工施設を増築して、ジェラートの製造に取り組む予定。また、チーズは奥が深く、多様なニーズがあるので、もっと種類を増やしたい。牛乳は、飲む時代から食べる時代になった。」と力強く語っていただきました。そして最後に、「われわれの原点は搾りたての生乳。この魅力を最大限に発信し、乳製品の価値を高めるため、新鮮でこだわりの商品を提供していくので、みなさん、ぜひご賞味いただき、体感してください。」とメッセージをいただきました。

執 筆：農業経営課

取材協力：西三河農林水産事務所農業改良普及課